

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105532		
法人名	有限会社ハートサブライ		
事業所名	グループホーム小鳥の森の家		
所在地	岡山県岡山市東区南古都734		
自己評価作成日	平成24年4月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所の理念でもあります「怒」の意味するところである自分がされたくないことは人にしてはならない。他を受け容れ、認め、許しその気持ちを思いやる。自分の事と同じように人の事を考える。一番大切な利用者への思いやりを大事にすることを全職員の心構えとして掲げています。</p> <p>「介護するのではなく一緒に暮らす」をモットーに、介護はしてあげるものでも、させてもらうものでもなく、人が共生していく上での人間としての行為、行動の一つだと考えます。</p> <p>利用者と位置付けられる者も職員と位置付けられる者も人が全てそうであるように、通じ合える部分で通じ合い、理解し合える部分で理解し合い、お互いを気遣いながら一日、一日をご機嫌よう暮らしています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JivvosvoCd=3370105532-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年5月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「介護するのではなく、親をみる気持ちで」という代表者の思いが端的に表れているのが介護計画だった。利用者の思い、家族の思いを汲み、細やかかつ具体的で、だれが読んでもわかりやすい言葉で綴られている。秀逸という言葉がふさわしい。利用者各人の毎日の状態や心の動きを敏感に察知し、観察していなければ、絶対に書けないであろうモニタリングも含め、利用者の思いに寄り添ったケアを実践している。「認知症の人」ではなく、一人の人間として、どの職員も家族のように、本当に一人ひとりに丁寧に接している。詩吟教室や音楽演奏など、地元ボランティアと利用者と一緒に楽しみ、学べる機会を週に何度も設け、地域の力を上手く活用し、生きがいや楽しみを感じられるよう、工夫している。また代表者は、子育てや家族の世話をしながらも働き続けられる環境を提供し、職員の定着率を高めていることが、ケアの質向上につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人を愛すること、ゆるすことをベースに利用者の個々の人格を受け止め、愛情を持って日々のケアを実践し、ご家族には日頃の状況を説明し日常生活を見て頂き安心を得ている。	ゆるす、おもしろさを意味する「怒」の理念を玄関とリビングに掲示している。代表者の思いが全職員に浸透し、「介護する」ではなく「親をみる」気持ちで、利用者の言動を受け入れた上で、日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	隣の中学の生徒さんへの挨拶をして元気を貰っている。散歩時に地域の方との触れ合いを楽しみながら清掃も兼ねて行っている。運動会、祭り等にも参加をしている。	代表者の地元であり、町内会に入り、氏神様のお守りや地域のごみ拾いなどに利用者と一緒に参加している。週1回は町内会の人ボランティアでやって来る。すぐ前の中学校へは運動会に招かれたり、通学中の生徒と挨拶をし合う関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者は地域在住の認知症を抱えた家族の話を聞いたり、相談対応をしている。ボランティアの方の催しや見学、実習生の受け入れを行い理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や具体的な課題に対して委員の方々から貴重な意見を頂いている。その内容を検討して、サービス提供の向上に役立てている。	運営推進会議には、家族会の代表、市役所の職員、民生委員、町内会代表、ボランティア代表等が参加し、活発に意見交換している。雑談から役立つ情報が出ることも事業所は理解し、参加者の都合を聞いて開催日時を柔軟に決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の疑問や確認事項、取り組み等について、その都度市担当者に尋ね、それらの意見や助言を活かしてサービスの質の向上に努めている。	市役所の職員とは、運営推進会議でほぼ毎回顔を合わせ、保険制度の不明点を教えてもらったり、利用の空き情報の問い合わせが来るなど、密な関係を築いている。市にも不明点等があれば、担当者へ気軽に問い合わせ、丁寧な回答を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束による身体的、精神的苦痛を理解して、してはいけないと周知徹底している。玄関の施錠も行わず外に出たがる利用者の行動に常に目を配り、注意して危険防止に努めている。	身体拘束は見受けられなかった。玄関や居室の窓など、一切施錠はなく、利用者は自由に外に出て、通学中の中学生に挨拶したり、風景を眺めたりしている。「ちょっと待って」などの言葉の拘束もないよう、職員が互いに連携して利用者の様子に気を配っている。	

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法について常に学ぶ機会を持ち理解を深めるように努めている。利用者の人権を尊重し、各自が誇りが持てるケアをしていくことが大切と考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が権利擁護に関する制度を講演や書物で学ぶ機会を持っている。その上で、制度の内容をご家族に情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を基に丁寧な説明を行い、不安な事柄や疑問点を尋ねて頂き、理解と納得が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御本人にはカンファレンス等に出席され要望を伝えて頂き、ご家族には電話や来訪時、運営推進会議、カンファレンス等で常に意見や要望を気軽に伝えるような機会をつくり運営に反映させるように努めている。	利用者からは折に触れて意見を聞いている。家族には請求書に写真を同封して、日頃の様子を知ってもらいようにし、電話や来訪時など、機会を見つけて意見を聞くようにしている。	家族の申し出や要望に対して、職員間での周知を高めると共に、意見に対して、どうしたか、どうなったかを家族にしっかりフィードバックできるよう、期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは話やすい環境にあり、日頃からの談話、ミーティング等でコミュニケーションを図っている、職員の意見や要望を出し易く心掛け反映させるようにしている。	代表者は常に職員と話し合う機会を持ち、時には1対1で長時間話し、職員の希望や疑問点に応えている。職員どうしも、知恵や意見を出し合う。大きな文字で「教えて」と記したシートを置いておけば、他の職員が回答する仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常時居り職員の実績、勤務状況等を把握し易い。気軽に個人面談を実施し意欲を持って就労できるように考慮している。また福利厚生充実(食事会、職員旅行等)を図るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	私達は命と心を預かる仕事をしています。そう考える時、もちろん健康でなければならないと思う。心を支えるには力を持ち、心の純度と強さが求められる。全員、自己研鑽に努めております。		

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会を増やして、勉強会をしたり現状の問題点などを話し合い、サービスの質の向上を図るようにしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に御本人の入居に対する不安、心配事をしっかりと把握できるように話し合いをゆったりと持っています。その上で安心して頂けるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族が抱えている不安や今、何に困っているのか、また要望等をじっくりと傾聴させていただき、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要とされ、何に困っておられるのかを見極め、真のニーズを掴むようにするため面接後に暫定プランを立て、必要な支援を判断し、御本人やご家族様の意向に沿いつつ検討して再プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する一される関係では一切なく、一緒に過ごし学び支え合う関係にある。利用者とのコミュニケーションが早期に図れるように御本人の思いに共感し笑顔で接するように心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の気持ちを尊重してケアの方針を共通理解して頂く為の話し合いを持ち、コミュニケーションづくりに努力している。ご家族がいつでも面会に来やすい雰囲気であり職員一同歓迎して接しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の地域の親戚、友人、ご近所様が来訪されて楽しい時を過ごして頂いております。昔お世話になった、大事にしてもらったと何度も来訪されることもあります。また馴染みの場所に外出支援をすることもある。	遠方からも親戚や知人が訪ねて来て、楽しくおしゃべりをしたり、連れ添って外食や買い物に出かけることもある。職員は日頃から利用者の書く能力の維持に努め、暑中見舞いなどが出せるよう支援している。	

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性や生活歴を把握しリビングの居場所に配慮し、孤立せず楽しく過ごせるように支援している。利用者同士と一緒に生活する仲間意識が保てるように工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止む無く入院により退所された利用者にも面会を行い、ご家族様より情報を得て、関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話や表情を通して真の利用者の希望や意向の把握に努めている。また把握が困難な場合には、家族からの話を参考に御本人本位に検討をしています。	利用者の言葉に耳を傾け、ゆっくりとしっかりと向き合っており、言葉に出ない部分も表情や様子から読み取っている。利用者の気持ちになり、してほしいだろうことを「私のやりたいことシート」としてまとめ、実現に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人独自の生活歴、暮らし方、生活環境、個性や価値観、サービス利用の経過の把握に努めている。その中から御本人の生きがいを見出すように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録類の充実を図り、バイタルチェックや症状の把握で異常時の早期発見に努め医療への連携を行っている。有する力を発揮して頂けるように個別に応じた現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的開催し、御本人御家族が参加され利用者の暮らしを反映した介護計画を立案している。職員全体で共有している。変化が生じた場合にモニタリングに基づいた計画の見直しを行っている。	職員の日々の細かい観察に基づいたモニタリングと、本人・家族の意向を元に、綿密かつ具体的な介護計画となっている。家族にもケアの内容や要点がイメージできる、わかりやすい内容である。各人のケアの重要点は揭示し、職員間で常に情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子、ケアの実践・結果、気づき等を記録し職員間での情報共有を行っている。これを基に介護計画を見直し定期的なモニタリングを実施している。		

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々生じた多様なニーズに対応していくように努めている。医療連携体制を活かして医療処置を受けながら生活の継続を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方による歌、演奏、踊りその後談話で交流を図り毎回楽しみにしておられます。隣の中学校運動会を見学したり、地域内を散歩して自然の中での触れ合いを楽しんでおられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは往診時や他に日頃の利用者の状況報告を行い支援している。専門外の疾患では御本人、家族の希望する医療機関の受診支援を行っている。	往診や夜間対応できる利便性から、利用者の多くは協力医をかかりつけ医としている。専門医や病院での受診もほぼ職員が付き添う。看護師が在籍し、医療機関と家族間の調整役も担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護経過記録、情報交換ノート等を通して伝達がある。日々の健康管理、症状把握で看護職との連携を密に図り、医療支援につなげていっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と利用者の情報共有を行っている。定期的に入院先に面会し家族と共に状況を尋ねている。退院計画づくりを家族と共に相談しながら進めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者には早くから主治医との連携を図り指示のケアを行っている。終末期の在り方については早期から家族との話し合いを重ね医師の方針、ホームの方針に合わせ説明を行い考慮していく。	本人の意思を最優先し、そのためにできることを家族、医師、事業所が十分に、何度も話し合える協力体制があり、同意書、看取り介護計画書として共有し、ケアにあたっている。つい最近も「ここでみんなと一緒に」という本人の希望に叶った看取りができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者の状態を把握し事故を未然に防止するように考慮して共有している。緊急時の連絡方法、観察ポイント等のマニュアルは作成し実施している。		

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し誰でも直ぐに活用出来る様にしている。利用者と共に避難訓練を実施している。防犯対策、火災通報の為にセコムを利用している。運営推進会議で協力体制の話合いを行っている。	災害マニュアルが整備され、避難訓練を利用者と共に実施している。食堂の席次は、万が一の際のスムーズな避難を念頭に入れて決めるなどの工夫も見られるが、火災発生時の初動は、全職員への熟知には至っていない。	消火器の位置や消防署への通報装置の操作方法などを全職員が把握し、行動できるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、その人らしい威厳ある姿を大切にしている。その方の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない事を職員一同が周知徹底しております。ケアの言葉かけも注意しています。	「怒」の理念と「親をみる」姿勢のとおり、職員は一人ひとりの状態と気持ちに応じて、さりげなく介助したり、しっかりと寄り添ったり、見守りだけに留めるなど、適切に対応している。言葉がけも丁寧で優しい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で御本人の思いや希望を表現し易いように、コミュニケーションをしっかりと取り、丁寧な言葉かけや表情を心掛け自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重しその日の体調や心理状態を考慮して御本人の望みに合った柔軟な支援を行っている。利用者が自由にゆったりと過ごされる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな柄や色の洋服を着たり、起床時に整髪したりして身だしなみやお洒落ができるように支援している。散髪も御本人の要望を取り入れ定期的に行っている。髭剃り、爪切りも出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は高齢者が多いが季節感のある献立づくりを考慮している。食材の準備や膳拭き等を手伝ってもらっている。御本人の状態に対応した食事形態の工夫、嗜好を配慮し楽しく召し上がって頂けている。	食事時間はどの利用者も表情が明るい。職員も一緒にテーブルを囲み、世間話で盛り上げる。食材のバランスと各人の好き嫌いが考慮された献立は、栄養士と当番の職員とで決めている。地元の無農薬野菜や新鮮な刺身など素材にこだわり、味付けや彩りが楽しめる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、バランス、飲水量を記録、確認して症状(便秘、発熱、内科疾患等)に応じた支援をし情報を共有している。好みや苦手な品を把握して献立作りを工夫し、個別に対応している。		

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアの声掛けを行い見まもりや介助の支援をしている。口腔ケアの重要性を職員全員が理解している。就寝前に義歯の管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況、支援方法が分かるように情報と介護計画に記録し個別のサインをして把握している。時間毎にトイレ誘導を促し、排泄への自立支援を行っている。	各人の排泄記録をつけると共に、スムーズかつ本人の自立を促せられる方法を介護計画に細かく具体的に記載し、職員が一丸となって支援している。その結果、排泄の自立度が維持・向上している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排泄誘導で自然排便を試みる。便秘予防に向けた献立の工夫をしている。また運動等を取り入れてる。排泄記録を取り難しい場合は主治医の指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意向を優先し入浴予定表を作成する。当日の健康状態を把握し実施している。浴槽に入れない時には足浴しながら温かくしている。安心されるように工夫、配慮を行っている。	週2回の入浴を基本としているが、その時の気分や、仲の良い利用者同士一緒に入りたいという要望に柔軟に対応している。入浴時には利用者の話をしっかり聞いて、くつろいでもらう。湯温の調整や低刺激石けんを使うなどの配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、騒音等の環境調整を行い、昼間の午睡を調整して安眠できるようにしている。個別に応じ疲れ具合、体調変動に合わせた休息支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、効能を全職員が分かるように明記している。服薬カレンダーに入っている薬を配薬箱に移す時も確認を行っている。服薬時には確実に服薬されたことを職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の趣味、嗜好を基本情報から把握しその方の持ち味が出せるように支援している。歌、詩吟、句作り、編み物、塗り絵、昔話、あんま等を楽しまれている。またお膳拭き等をして頂き感謝の気持ちを伝えている。		

グループホーム小鳥の森の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普通の会話から要望を聞いたり、御本人の状況に応じた外出支援が出来ている。散歩買い物、公園、行事の参加等、体調を考慮して実施している。またご家族の面会時に外出もされ楽しまれている。	利用者の高齢化、重度化により、以前より遠出は減ったが、近隣への車の買い物に同行してもらったり、公園の散歩や、ベランダや庭での水やりや野菜の収穫など、外の空気を味わい、楽しんでもらえる機会を極力増やすようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者はほとんどおられない。金銭は基本にご家族が管理されている。お一人少額を所持されているが、自ら使用する場面がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚、友人からの電話を取り次ぎしている。ホームからも要望に応じて電話をかけ、取り次ぐことがある。席を外す等の配慮をしている。暑中見舞い等の手紙を書かれる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングルームには四季折々の花を生けて季節感を取り入れている。共用の空間が不快や混乱を招くような刺激がないように常に配慮、工夫をしている。居心地良く過ごせるように五感への配慮もしている。	あるコーナーには胡蝶蘭を置いてホテルのロビー風の豪華な雰囲気を出したり、食卓には季節の花を飾ったりと、緑を取り入れて心とむ空間を演出している。広い窓からはベランダの花や山の木々、ひなたぼっこをしている猫が目に入り、外を見ながらゆったりと過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置、足の岩盤浴を設置してリラックスしながら一人になったり談話したりと思ひ思いに居心地良く過ごせている。居場所づくりや環境づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある使い慣れた物、好みの物を置き御本人が居心地良く過ごせている。居室でのポータブル処理は直に行い不快のないようにしている。ご家族と居室で過ごされるのも楽しみにされている。	使い慣れたたんすや椅子、仏壇、鏡台など大きな家具から小物まで、各自、思い思いのものを持ち込み、その人にとっての居心地良い空間になっている。毎朝の掃除で清潔さを保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かり易いように工夫している。御本人の「できること、わかること」を活かしてどうしたら御本人の力で行えるのかを考慮している。廊下等には障害物になる物を置かないように常に配慮をしている。		